

【刊夕日五十月八】



定部一錢五分 刊行日 昭和五年八月六日 印刷所 常磐新聞社 電話 三〇三六

寄書

中村町會を觀る

一傍聽人

私は數回に渡つて中村町會を傍聽した議會は甚だ愉快なときもあつた然して甚だ不愉快なときもあつた、總じて議長は議長の操縦は中々訓れてると云いたいがまた正視することの出来ない様な醜態を演ずることもある、要するに議長は餘りに事務なれ過ぎて新山議員かと愚弄する傾きは、あり／＼と見える蓋し之れも議長の奥の手とも云ふのたうか。然れども議長は餘りに多數に制せらるゝ傾向は、ある苟も名議長たるものは少數に花をもたせ多數黨の鼻を挫ぐ手段こそ議長の手腕に拍手せらるゝことだらう、然るに中村町會議長はどうもその點に於ける様には思はれる、そして傍聽人否や町民に甚だ不快な感を抱かせる町民は國會や縣會と全く其の趣きを異にして親密なる一個の大家族であ

る凡ては圓満の進行を町民は望んで、凡そ第三者に居つて甲乙の論争を聞くとき、たとへ多數黨に立派な意見あり少數黨を壓迫する傾向ありと雖も弱者に同情したきは人間の通有性である、否や義侠心に富む日本人に於ては殊更甚だしいものである。古來日本人は悲劇または快舞傳を好んで讀み或は傾聽する所以は此等を意味するものだらう國定忠次、清水次郎長等の後世に至る迄でもはやさるゝは全くこの通有性によるものである、然るに吾が中村の議長は此等の通有性を實に認めない徒らに多數黨の横暴を傍觀して蓋し吾が傍聽人は名議長の眞價のメートルを茲に置きたい。次に議長の提出せし議案は何時掛價をして置くとして四倍五入で決議せられてる原案維持などは始んと眼中にない議員まかせで修正などは平氣でやつてる與論に一致する意味から云へば良い様なもの、原案修正ほど議長の價値を下げるものはない、結局粗漏なる議

案といふことを赤裸々に暴露し議長無責任なる感を一層深刻に吾々に抱かしむる而して議長の誠意を疑ふものである、本年度戸數割調査委員會に於ける三百有餘の修正を見たるが如きその一端を物語るものだらう將來充分調査の上確固たる自心を以て提出されたい、最後に議場の紛糾を抑止する力はあまりに乏しい然し之れは議長をせむるは少しく酷である何んとなれば此等の問題は専ら副議長即ち助役の手腕に待つべき性質のものである。

常磐文藝

病みて

平窪 Y・A

限りなく
廣い
あの緑の丘を
一散に
けちらして
見たいと
思つたのは
病める身の
苦しい
氣まぐれたつた。

開業廣告

今般共融社ヲ設立左ノ業務ヲ取扱ヘマ

スニ付御用命ヲ希上マス

金融、土地建物、電話其他ノ仲介、
資金の取立及賣掛代金整理
………
家出入ノ捜査婚姻其他ノ身本内債
………
本社 石城郡平町字十五丁目十二番地

共融社

元平警察署刑事係部長

主幹 青田

田保太
電話(呼出)八〇四番

名聲天下に轟く浪界の大統領
愈々御期待の虎丸師當地十七日開場
暑中御伺申上ます、私等今回一門幹部一商引連開演
仕り候何卒御引立之程伏而御願申上候
龍甲齊虎丸師 長講二席 演
▼今回ハ責任興行ニ付他座ト一切掛持ハ致シマセン
出演者大數ニ付午後四時花火合圖開場
時節柄大勉強 ▼入場料 全 一等平士間大人金七十錢
小人金三十錢
割引前賣券到 聚樂館 電話 四七〇
處ニ有リマス
絶対に他座と掛持等は致しません

江戸前料理 鳥料理
美味で評判の良い
鳥料理
ぜし一度御試食下さい
出前迅速 錦水
田町末廣東隣り(電話四二二番)
(呼出八〇三番)

食用水販賣
速敏達配
魚問屋
丸市魚問屋
電話 二一三番

市の大音器
提供價元々愈々此際限り百壹
自七月廿五日
至八月廿五日
特賣期間
毎土曜日店頭に於てレコードコンサード開
催致します
ドーズ御聞き下さい
磐城銀行隣り
天地堂
音譜在庫品常に豊富

問題の事記

警中校長内定の
橋本氏から手紙

不日参る事に相成居候
遠藤助役が立證

警城中學校長として長崎縣
地方視學官橋本文壽氏が就
任すべく内定した事は本紙
が逸早く報導した處であつ
て果して何人が此の椅子に
着くべしと、さかを刮目
されて居た折柄だけに新田
目元警中同窓會長は電話で
本社に材料の出所を尋ね來
り又遠藤中助助役は「橋本
視學官は私の叔父に當る人
だが、警中校長を承諾する
筈はない、何か貴社の聞き
違ひではないか」と
疑念を、洩らす等可
成りのセンセーションを起
したらしい模様であつたが
其後正式の辭令が出ないの
で再び先きの本紙記事が問

間違ひ

なかつた、
今日橋本視學官から此の手
紙が來たよ」と記者に見せ
た手紙に依れば
謹啓其後は遂失禮のみ申
居候所此度小生警城中學
校に参るやう内定致不日
参る事に相成居候、これ
も御縁と存じ何分今後公
私とも御懇情蒙り度願上
候(後略)

乳呑兒を抱いて
窮した身の振り方

相談先から衣類を盗む
傾城工事の女人夫

傾城トンネル改修工事の賃
銀が男八十錢女四十錢とい
ふ情けなさである事は本紙
既報の如くであるがこんな
蚤の涙程の金では如何に物
價の安い今日と雖ども結局
生活難より逃れる事は出來
ぬ、本日午前十時頃やつれ
切つた軀に乳呑兒をいだい

同村農鈴木政義を訪ねて行
つた處生憎留守中だつたの
でふとした出来心から高貴
織夏單衣價格(十七圓)外四
點の衣類を窃取し湯本町江
尻質店に十圓にて入質した
のを佐藤駐在巡查に發見さ
れ捕れの身となつたのであ
ると。

先妻の家に暴れ込み
亭主の頭を玄能で殴る

その前にも散々な暴行

石城郡内郷村大字綴炭礦雜
夫佐藤留次郎(三)は本十五
日午前五時半頃同村大字大
下經劇場前國道を泥酔徘徊
し通行人に惡口暴行を働き
平町長橋町納豆商榎原末治
に突き當り石を以つて
頭部を殴り負傷せしめ其足
で同村居住元の女房三浦キ
ク(三)方に立廻りキクの夫
徳治を炭割用のゲンノウを
揮つて頭部其他に重傷を負
はせ直ちに平署に捕れたが
精神に異状を呈して居るら
しいと。

起債認可の
経過を報告

町議一同に
平町役場にては明十六日午
後三時から町會議員一同を
議事室に招き遠藤助役から
水道擴張工事起債認可の經
過に就いての報告があると

降りて轢る

昨日湯本で
石城郡湯本町大字湯本字傾
城請負業高田庄三(四)は昨
日午後四時頃居町地内で自
動車から降りた處を後方よ
り疾走し來つた平町尼子自
動車部運轉手石城郡渡邊生
れ酒井武彦(二)の運轉せる
自動車に轢倒され大小數ヶ
所の傷を負つた。

豫算を減額
産馬組合で

石城郡産馬畜産組合にては
十四日午後一時から石城郡
團體事務所にて臨時總會
を開き五年度豫算一萬二千

撞球の腕前
負けず劣らず

道場荒しが吃驚
仇な年増の涙玉

「御免、拙者こそは……」と
昔のお武家氣取りで道場な
らぬ撞球場の自稱天狗が
時折出現しては平町の愛キ
ユー家連をひやりとさせる
さうだが
…… 多年 鍛へた一騎當
千の強武者が鄙には稀れに
揃つてゐるから決して引け

漂泊兒の盜み

警崎の木賃宿で
住所不定新潟縣柏崎町生れ
小林勝夫(一)假名は諸々方
々を漂泊し十二日夜石城郡
警崎村大字藤原木賃宿に投
宿中同宿せる鈴木政吉所有
の現金八圓を窃取平署に檢
舉さる。

中村便り

相馬團圓番付 相馬郡
團圓界の番付左記の通り
(横綱)中村鎌田喜平(關
取)鹿島森政治、小高渡
邊專藏(關脇)中村青田運
送店主島田吉治郎、鹿島
金子唯三、相良純治郎、
原町山口淺次郎、原町機
關庫主任田山福治(小結)
小高白井慶次、中村名木
橋秀夫、長谷訥造、小高
佐藤清四郎、小高津田賢
治、小高細野鬼子、小高
錦織新太郎(前頭)中村小
田部秀雄、星次郎、原町
阿部市助、鹿島佐藤憲助

年増

を主に踊らせ
てゐるが腕前四十位とはこ
れがイハニル涙雨物だ、何
れがいつも平署の鯨岡警部
補と織田齒科の緑川君とは
平署に於ける兩鼻雄、それ
に古型ではあるが奇麗な玉
を穿くので評判な白井三郎
君等が何れも二百以上の腕
何でもやるとみえて岡田時
報氏は百五十、伸びる一方
の佐々木勇雄君、それに田

常磐片々

工事を開始した湯本のトン
ネルは鐵道省で一名金食ひ
トンネルと稱す由、當り前
さ、傾城トンネルだもの

募集

文藝其他投稿
を募集します

川又松藏、郡邦左工門、
山田茂治、鈴木金助諸氏
…… 福島の自動車、福島中
村間定期自動車運轉は十一
日より毎日十二回往復して
居る。
…… 生活苦に喘ぐ女の盗み、誰
れか彼れが彼女に石を投げ
打ち待て……
…… 村民報等と負けず劣らず、
大澤平商數論も似た所、山
野邊辯護士は八〇であるが
百の腕は大
…… 丈夫との噂、白銀
の高木喬君や古川炭礦の港
谷經選課長等も百以上は突
くさうである、愛キユー家
も最初八、九人であつた
のが今では二三百人になつ
てゐる、多士濟々ぶりでこ
の中に頭張つて居る中堅所
を一寸覗いて見やる
(つづく)



明日の天気 今晩も明日も南西の風晴れところに依り夕立

- △前六〇〇〇 ラヂオ體操
- △前六二〇〇 夏期獨逸語講座(第二十四講)小田切良太郎
- △前七〇〇〇 英語會話速成講座(第十二講)エフエイチリ
- △前九一〇〇 料理献立
- △前九二〇〇 『果物の密豆』佐藤つぎ發
- △前一〇三〇〇 夏期婦人講座『女子公民教育』(一)關口泰
- △後六〇〇五 『運動競技全國中等學校野球大會試合狀況(甲子園より中継)』
- △後六〇〇〇 子供の時間
- △後六〇〇〇 『將棋で出来る野球遊び』コードモのテキスト編輯部
- △後六三〇〇 ことばの講座『室町時代の通俗語と』
- △後七二二五 講演『本心の發露』曹洞宗大本山布教師 熊谷泰壽
- △後八〇〇〇 讀經『歌佛法會』輪王寺住職 專内僧堂 師家 禪定 無外 專内 僧堂 衆僧
- △後八三〇〇 『東北各地盆踊』仙台市西公園より中継 一、福島盆踊 福島縣原の町高橋はつ外十名
- 二、山形盆踊 山形縣新庄町岸北屋外六名 三、南部さんさ踊、岩手縣西山町高橋盛水外十名 四、上州盆踊 鹽釜民謡俱樂部 五、佐渡おけさ 岩切鳳謠
- △後九四〇〇 時報氣象通報 報審組豫告

室町時代の通俗語と狂言

文學博士 和田萬吉

我國の古文學は大概記載語で書きあらはしたもので或時の人々が實際に口で語り耳で聞いた通りをあらはしたものは殆どありません

文學上の 作品の最も少いと謂はれる室町時代に出来た能の狂言の文に於て之を見るのであります狂言は能と姉妹關係を有つ一種の舞台藝術である事は皆御承知の通りですが能の方には謹嚴莊重味を主として

言の文にあらはれて居ります、狂言の取題は上は大名諸侍から下は農工商人僧侶山伏神職まで浮浪物賣博打詐偽盜賊等の常習不良者までに及び、其中大名を主人公とする曲も其真面目な公生活などを描くのでは無く寧ろ下層の人々との交渉葛藤等を正實に寫す事を主として居りました所詮狂言

嘆佛法會

福定無外

三世三千諸佛の功德を恭敬讚歎して現世の法益先之精靈の冥福を脩する最勝の法會なり

は民衆を題とした者、民衆の理解に適應させた者民衆の嬉笑慰安を

職業と教育

關口泰

婦人の家達から社會への進出といふのは畢竟婦人が職業によつて社會に結びつくのでありますから職業教育に公民教育的要素が多分にあることは云ふ迄もありません、昔は教育といへば一般修養ゼネラルカルチュアを目的とするものであつて職業教育といふものは特殊の職業に對する準備であつて眞の教育の中には入れられてなかつたのです。明治維新になつて士農工商四民平等となり一般庶民を國民教育の對象としなければならなくなつて來てはその教育の内容が異なつてくるのは當然です、しかし職業教育は一般修養に反對してあるものでもなければ人格の陶冶を蔑視するものでもありません、職業勤勞勞働を通じて人格を磨くのですそれで職業教育といつてもただ或る特定の職業に對する技術的準備をするといふ

目的とし

た者と謂ふ事になります、其文は悉く當時の通行語で綴つてあつて決して古語を交へたり古典を引いたりしてはありませぬそれ故狂言の文學價値は姑く措いても其の語學上の特質は大に注意すべきであります、從來狂言は俗氣の多い口語體の文で綴つてあるために多くの文學者たちに

顧みられ

なかつた傾がりますが語學の士から觀ると却て其口語體である事が此時代の通行語を考察する上に絶好の資料になるのであります、後の江戸時代の文學言語に此狂言に特殊の語法文格が如何程

看護婦急派の求めに應じます

平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

各種 體操、蘭内藥局、寒暖計、電話五〇番

平新川町十九 木村病院 電話一六四番

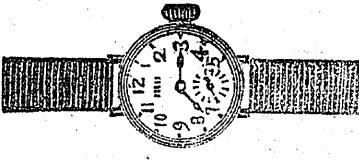
産科 院長 木村寅次郎
婦人科 女醫 木村コウ
内臟外科 醫學士 松永憲一
整形外科 醫學士 萩原駿二
藥局 東京藥學士

時計の生命は修理にあり 迅速親切叮嚀をモットーとする

金光堂時計店 御用命を願います

平町 電話七三六

八月十日頃より 電話一九五番に變更に



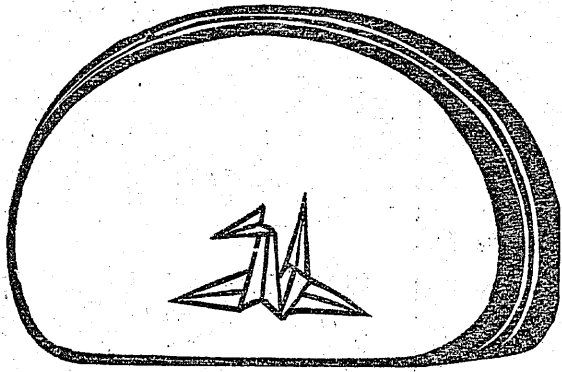
セメント 壁用材料 コールタール ベンキ塗料 板ガラス

警城セメント株式會社 代理店 西村屋藥舖 平町二丁目(電三)

プロもなく
ブルもない
あらゆる社会層からその真價と認め
られてゐますマツモトヤのパンはと
てもうまくて万人歓迎

目丁四平
ヤトモツマ
番四一二話電

鶴印特製最中



大鶴屋菓店

番四〇七話電 下園公町平

夏服

軽快で潇洒な夏服の
季節となりました
スマートな今年度の
新製品が豊富に
取揃ひました

- ◇軽装上衣
黒セル4・20ヨリ
カシミヤ
10・00ヨリ
- ◇白着衣
1・60ヨリ
- ◇白づぼん
・60ヨリ

平二あかや洋服店 電203

高久病院
院長 醫學士 高久 清忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 雄
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
内科 小兒科 外科 花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科
平町田町 電話五一三番

外科 内臓外科 耳鼻咽喉科 産婦人科
福島縣浪江町
山村醫院
電話 一一四番
澤 正 路
電三四三番

タクシへの御用命は
何卒 昭和タクシへ
……(料 金 低 廉)……
平 驛 前

移 轉 廣 告
外科 性病科 科
× 光線科
平町田町(赤心堂病院跡)
安齊外科醫院
電話 四七五番
意 隨 院 入

梅毒 淋病
皮膚病 婦人病 淋病
門 專
腸虫 十二指
院醫科 腸病 胃性 村松
(七〇一話電町南平)

全 治 淋 病
喫茶部新設

御中元御贈答品には
贈るに御便利・貰つて御重寶な
三井の商品券
三井呉服店

月やく止り。産兒制限相談所
平町三丁目 宇佐美藥劑士
時勢に鑑み本日より賣藥二割引、化粧品一割引仕候

耳鼻咽喉科専門
氣管食道科
平町南町(舊診療所向)電話一七〇番
大和田醫院

女寶丸
元祖家傳の子宮
坐藥として名聲噴々たり
白帶下、赤帶下、陰門惡臭の人
子宮冷へ込み腰足の冷へる人
月經不順、下腹痛を引起る人
こしけの下る方
子宮出血、子宮癌腫の人
逆上、頭痛、ヒステリーの人
淋毒性子宮病、不妊症の人
歴史に古く學理に新ら
しい著しき効果
子供の出来る名藥
子宮病が根治する
平町南町 電話二四四番
市原商店